

兵高教組

確定速報7号

2014年1月13日 調査情報39号

兵庫県高等学校教職員組合調査部

TEL : 078-341-6745

FAX : 078-351-3185

URL : <http://www.hyogo-kokyoso.com>

mail : honbu@hyogo-kokyoso.com

13確定 越年交渉スタート

「行革」カットの「段階的縮小」の回答を引き出す 交渉団、介助員の雇用を強く迫る

高教組・従組・兵庫教組合同交渉団は、1月10日、13確定交渉の県「行革」カットについての交渉を行いました。松田教育次長から、第三次行革プランにおける給与抑制措置の今後の方向性について、基本的な姿勢が説明されました。交渉団の追及により、給与抑制措置について「行財政構造改革期間中、段階的に縮小を図ることを基本に、その具体的内容は毎年度定める」という回答を引き出しました。これからも交渉は継続します。越年3大要求署名を集め、職場の力で県「行革」カットを終了させましょう。

《教育次長の回答》

《賃金の「行革」カットについて》

給与抑制措置の方向性としては「行財政構造改革期間中、段階的に縮小を図ることを基本に、その具体的内容は毎年度定める」という旨を、第三次行革プランの二次案で明記することができないかと考えている。しかし、本県の財政状況は依然として厳しく、給与抑制措置すべてを直ちに解消することは困難な状況である。そのような中で給与抑制解消の方向性について現時点でお示しできる最大限のものがある。ぜひご理解をいただきたい。

《交渉団からの追及》

1. 県の「行革」による賃金カットは、5年に限るのではなかったのか。このままいけば永遠に続き、賃金カットの終了の目途がたたない。しかも、われわれの賃金カットされた分が、教育予算にもまわっていない。依然として大型公共事業にお金をまわし、教育を含めた社会保障や県民サービスは低下している。

2. 県の「行革」により、工業高校の実験実習費がなくなり実験実習ができない。暖房の費用が足りなくて灯油が準備室に入らない。出張旅費が足りなくて出張にいけない等、教育予算が削られ、サービスが低下している実態を明らかにした。

3. 介助員の雇用の問題

県は「行革」により、介助員の雇用を奪うのか。新設される姫路しらすぎ特別支援学校のスクールバスが民間委託されると、介助員の雇用がなくなる。

民間委託は介助員全員の雇用の確保が前提であること。県の責任ですべての介助員の雇用を守ることを追及した。

《教育次長の再回答》

《学校予算について》

月二回ほど学校へ行くが、学校現場の状況や予算の削減の現状は把握している。その中で何ができるのかを考えている。財政当局に対しては、維持管理費が削減されており、これ以上減らすのはやめてくれということは数字で示して訴えている。

《介助員問題について》

特別支援学校では、先生の一員として頑張っておられるのは良く分かっている。スクールバスにまで乗ってもらえるのかという問題だが、今の方針では昼はお願いして、朝晩の方は民間へということである。生首を切るつもりはもちろんない。1年契約という法律上の区切りもあり、限界もあるが、できるだけことはしたいと思っている。ただ、100%保障となるとなかなかできない部分があり、現場も含めてどれだけ努力できるかということである。行革プランを作成するのが2月なので、最終局面まで何かいい材料をお示しできないか状況の把握に最大限努めるとともに、関係部局にも十分働きかけていきたい。

県「行革」賃金カット終了、介助員雇用確保

13確定越年3大要求署名にご協力を集約は1月23日(木)までに高教組本部へ

職場の力で「行革」カット終了時期を明示させよう